

### 平成26年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	観光振興と環境教育を考える事業
事業主体 (連絡先)	一般財団法人川上村振興公社 (長野県南佐久郡川上村大字大深山 542 番地 電話 0267-97-2070 理事長川上芳夫)
事業区分	(6) ア特色ある観光地づくり (8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,200,141 円 (うち支援金 : 2,996,000 円)

#### 事業内容

##### 1、金峰山開山祭

- (1) 前夜祭「田部井淳子氏トークショー」  
実施日 平成26年6月7日(土)  
場所 金峰山荘  
参加者 川上村民、町田市、三鷹市等90名
- (2) 金峰山開山祭「田部井淳子さんと金峰山へ」  
実施日 平成26年6月8日(日)  
場所 金峰山小屋  
参加者 約150名



【農村と都市との交流会 信州・川上郷へGO!】

##### 2、廻り目平周辺シカ食害調査及び植生回復実験

- 時期 5月～12月
- 内容 食害調査、カメラの設置、ヒヤリング、モニタリング、環境学習等

##### 3、農村と都市との交流会「第1回信州・川上郷へGO!」

- 実施日 平成26年8月6日(水)～8日(金)
- 場所 廻り目平キャンプ場、川上村内
- 参加者 4市1村小学5、6年生計86名(抽選による)
- 内容 川上村と友好都市である町田市、三鷹市、武蔵野市、蕨市の小学生の交流会  
テント泊と自炊、クライミング体験、アニマルトラッキング、レタス収穫体験、岩魚のつかみどり、星空観察、クラフト体験等

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①金峰山開山祭が20年ぶりに復活され、長野県でも「信州山の日」が制定されたことから効果を得、特別企画として著名な登山家田部井淳子氏を招いたことは大変成果がありました。

報道関係では朝日新聞、信濃毎日新聞、サンケイ新聞各社に開山祭の記事が掲載され、特に信濃毎日新聞「斜面」掲載では多くの反響を得られました。村内県内外へ地元のしかも身近な山であることを大きくPRできました。それにより登山客増と観光開発に繋げることができました。金峰山が修験道の山であり歴史的にも意義ある山であることを含め冊子を配布し、金峰山の魅力を発信しました。26年6月の登山者数は前年対比88%増の稀な記録を残しました。

#### 【目標・ねらい】

- ① 川上村の観光開発
- ② 地域文化の振興
- ③ 農村と都市との交流、活性化
- ④ 川上村の魅力を発信

②廻り目平周辺シカ食害調査を行うことにより地域住民や廻り目平へ訪れる観光客も交えた環境学習に繋がられ、周知と対策に役立てることが出来ました。本年度の報告書を基に今後の環境学習において活用することが可能になりました。シカ食害調査及び植生回復実験は、農村と都市との交流会開催日と時期が重なったため環境学習の一環として調査地での学習会を行うことが出来ました。それに加え、廻り目平で捕獲されたシカの皮と角に実際に手で触れられたことは貴重な体験であり、それらを活用したクラフト作成も行いました。

③川上村と友好都市である町田市、三鷹市、武蔵野市蕨市の小学生を対象とした交流会を行ないました。未来を担う子供らが自然の豊かさを体験し自然や生命を通じ協調性豊かな人間形成に繋がられ川上村と廻り目平キャンプ場のイメージアップと利用率増に結び付けられました。川上村の魅力を発信できる良い機会になりました。4市1村の小学生が一堂に会し交流できたことについて参加者、保護者、関係者から継続事業としての要望が強く出されました。

※自己評価【 A 】

【理由】

本年度の3事業は、それぞれ過去においても是非とも実施すべき事業であったにもかかわらず踏み切れませんでした。しかも今後も継続してゆくべき重要な事業です。支援金を活用できたことにより今後に向けて弾みがつけられました。大成功だったと思います。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- 1、金峰山開山祭を毎年継続して開催します。金峰山小屋と協力の下、より多くの方々に金峰山の魅力を発信します。併せて川上村の観光開発と廻り目平観光施設の活性化、利用率増に繋がります。
- 2、本年度の「シカ食害調査及び植生回復実験調査報告書」を活用していきます。廻り目平を利用される各種団体等を対象とした学習会を開きます。例として地元「第一、第二小学校の夏山キャンプ」や年間10回以上のアウトドア総合ブランド「モンベル社との協賛ツアー」時、また、計画中である「第2回信州・川上郷へGO!」開催時には環境学習として行程表の中に組み入れ長期にわたり定着させていきます。そして、地元林野保護組合へ牧柵の設置を、猟友会へは鳥獣駆除を依頼します。川上村と廻り目平施設およびその周辺が抱えている自然の有効活用や鳥獣被害対策等のモデル事業として発展性が期待できます。
- 3、夏休みを利用した農村と都市との交流会「第2回信州・川上郷へGO!」を継続して行います。本年度のアンケート集計において継続事業への要望が強いことと、本年度の経験を踏まえて魅力あるテーマを組み入れていきます。過去にこのような農村と都市の子供たちが一緒に行動できる交流会は実施されなかったことから是非とも継続して行えるよう努力します。豊かな自然を後世に繋げてゆける人材を発掘し育成するため、人を信頼し愛情をもって接することのできる人づくりの場を提供します。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある